



大相 守 議員

問

稲垣千穎とどうかかわるのか

答

音楽を通じかかわっていく



小・中学校などへ貸し出した「蛍の光」と稲垣千穎の本

質問 「蛍の里」構想について。

- (1) 町内に蛍はどれくらい生息しているのか。
- (2) 蛍を飛ばせるプロジェクトを、町として立ち上げてはどうか。
- (3) 町の歴史を考える意味でも、稲垣千穎が、作詞した「蛍の光」は、重要だと考えるが、ど

のようにかかわっているのか。

答弁 (町長)

- (1) 町内各地で蛍が生息しているとは聞いているが、どれくらいかは把握していない。
- (2) 地域の団体など民間レベルでの活動に期待したい。

答弁 (教育長)

- (3) 中西光雄さんが執筆された「蛍の光」と稲垣千穎の図書を二十三年度に購入した。

これらの本を活用し、図書館をはじめ、小・中学校、高校、県の機関へ貸し出した。今年、(仮称)「蛍の光」卒業ソング音楽祭の開催を計画し、県地域づくり総合支援事業の申請を行っている。今後も音楽等を通じ、かかわっていききたい。

質問 (仮称)「蛍の光」卒業ソング音楽祭の内容は。

答弁 (生涯学習課長)

九月二十二日、二十三日に、中西圭三さんをゲストとして、昨年の大震災で音楽活動ができなくなった県内外の中学校、高校、大学などの合唱部や吹奏学部を招待して、「蛍の光」など、卒業ソングをメインとしたコンサートを考えている。

問 原発事故前と事故後の食材の納入は

答 米とシイタケが変わった

質問 東京電力福島第一原子力発電所事故後の、食の現況は。

- (1) 学校給食の食材はどのように検査されているのか。
- (2) 食材の納入は原発事故前と、事故後ではどのように変わったのか。
- (3) 現在、町の農家の米をはじめ、農産物の状況はどうか。

答弁 (教育長)

- (1) 納入業者からの放射性物質分析結果の報告により確認し、確認できない場合は、納入前日の検査を実施。
- (2) 棚倉産米を県南産米、



給食センターに配備してある放射性物質検査器

棚倉産の生シイタケを県外産の乾燥シイタケに、切り替えた。

答弁 (町長)

- (3) 米は、全袋検査を実施するため、体制作りを整備しているところで、農産物においては、生産された時期や出荷時期をとらえて、モニタリング調査の積極的な推進をしている。

質問 「弁当の日」を実施しては。

答弁 (教育総務課長)

趣旨については賛同できるが、若干時間が必要。



角田 悦男 議員

問

二学期制の成果と課題は

答

問題が残れば慎重に検討

質問

(1)平成十九年四月から実施された、二学期制の成果と課題は。

(2)県南地区の他校との関連は障害がないか。また、中学校の進路関係の評価に支障を及ぼさないか。

答弁(教育長)

(1)児童・生徒の学習意欲や理解力の向上につながっている。課題は前期と後期の間が少なく、学期の途中で長期休業期間があることなどで、自主学習の有無が学期の成績に影響することなどがある。

(2)県南地区単位の行事については、三学期制を基本に計画されているため、若干の不都合が生じる。また、進路関係の評価には支障はない。

質問

二学期制の場合は、前期と後期の切り替えが三日しかないので、子ども達の気持ちの切り替え

が大変難しいのでは。

答弁(教育長)

期間が短く難しいが、前期と後期の区別やプログラムなどを子ども達に与え、徹底を図っていく。

質問 二学期制の評価が、

内申書などに影響し、高校進学時に支障はないか。

問

高齢者への交通手段確保は

答

調査研究をする

質問 高齢者の交通手段

をさらに充実させるため、今後町が考える支援策はあるのか。

また、他町村で実施している、デマンド交通を検討してはどうか。

答弁(町長)

デマンド交通については、県内他市町村で商工会が主体となり、様々な形態で導入している。経常経費に対し、補てんを必要としている現況を踏まえながら調査研究をす

答弁(教育長)

年間の評価が届けられるため、問題はない。二学期制については、もう少し工夫をし、各学校毎に検討をして、平成二十六年度に最終的な結論を出したい。



他町村の小型バス

る。

※デマンド交通
利用者の要求に対応して運行する形態のバス

問

保育園の入所と待機児童の状況は

答

待機児童を出さないよう最大限に努力

質問

(1)保育園第一・第二園舎の入所状況は。

(2)中途入所の申し込みは可能なのか。

答弁(町長)

(1)第一園舎は、定員六十名に対し、六十九名の入所。第二園舎は、定

員八十名に対し、八十七名が入所している。待機児童については、先生の増員や保育室の改善などを実施し、待機児童を出さないよう努力しているが、十四名の待機児童がいる。(2)中途申し込みは可能である。



棚倉保育園第一園舎



宮川 政夫 議員

問

石綿セメント管更新を加速すべき

答

有利な財源を確保し計画的に進める



上台地区本管布設替工事

質問 現在棚倉町では、漏水対策として計画的に石綿セメント管の更新工事を行っているが、東日本大震災による破損などの影響で更なる漏水が懸念される。

震災復興事業として更新を加速させることはできないか。

水道使用量及び有収率の現況と有収率向上策は、

答弁 (町長)

本町の石綿セメント管更新事業は、平成十四年

度から国の補助事業を活用し取り組んでいる。平成二十三年度末で、全体の五十六%が更新を完了し、今後も実施計画に基づき更新事業を進める。

震災復興を目的とした更新補助事業は該当するものがない。

平成二十三年度末の有収率は七十五%である。計画的な石綿セメント管の更新事業と、漏水調査に基づいた修繕工事により有収率向上に努めている。

問 具体的学力向上施策は

答 課題克服に努める

質問 四月から新教育長が就任したことにより、これまで以上の教育環境向上を期待している。

新教育長の学校教育に

取り組む基本姿勢を問う。

(1) 本町教育の現状認識と、いち早く取り組みたい課題は何か。

(2) 本町が取り入れている「二学期制」への評価

(3) 学力向上のための具体的施策。

(4) 「全国学力テスト」の結果は公表し、学力向上につなげるべきでは

(5) 「ゆとり教育」の総括と、新学習指導要領で期待される成果は。

(6) 生徒間の学力、体力格差の要因の一つと言われる、学校の長期休暇(夏休み、冬休み)は減らすべきではないか。

答弁 (教育長)

(1) 振興計画の目標通りに推進されている。中学

(4) 公表は、学校間や教師同士の競争を生み、そのしわ寄せが子供たちに跳ね返る恐れがあることから、差し控える。

(5) 発展的な課題に取り組むことができたことなどから、趣旨の方向は良かった。新学習指導要領は充実したものであると考える。

(6) 授業時間は十分に確保できている。

問 「たなぐら霊園」の増設を計画すべき時期では

答 今後の要望状況で増設を検討

質問 核家族化の進行などにより、新たに墓地の取得を望む声が聞かれる。

墓地需要の増加が望めることから、「たなぐら霊園」の増設を計画すべき時期ではないか。現状と計画を伺う。

答弁 (町長)

現在、二百三十区画で、全て契約済み。今後の要



たなぐら霊園

望状況などにより、増設を検討する。



松本 英一 議員

問

山岡小学校諸問題の方策は

答

地域関係者懇談会を設置し検討



山岡小学校

質問 山岡小学校の検討委員会というのは未設置か。

答弁 (教育総務課長) 山岡に限定しての検討委員会は、未設置。

質問 山岡小学校に関する検討委員会を、今後設置する考えはあるのか。

答弁 (教育総務課長) 地元の方に、検討委員会の設置の同意が得られるならば、設置したい。

問

防災行政無線が被災した場合は

答

非常用親局装置を整備

質問 大規模災害で、現在整備中の防災無線が使えなくなった場合、住民への通信手段は、どのようなのか。

答弁 (町長) 現在整備中の防災行政無線システムには、従来にはなかった補助機能が装備されている。これは昨年の東日本大震災規模の地震でも十分に耐える強度は備えており、役場以外の場所からも通信可能となる。また、遠隔制御局として、棚倉消防署に放送設備を配備し、役場親局が使用不能の場合には、遠隔制御局を、親局の代替設備として使用することも可能。

さらに、災害時における円滑な情報の収集・交換を実現するため、消防団安全対策整備事業として、国庫補助事業を活用し、トランシーバー九十台を購入し、消防団や関係課に配備をした。

問

唱歌「蛍の光」発祥の地として町おこしの考えは

答

町おこしには絶好の機会

質問 唱歌「蛍の光」作詞者が当町生まれと判明したが、これを起爆剤として町おこしをしてはどうか。

また、民間で蛍の里づくりをするような場合、町の支援は。

答弁 (教育長)

町おこしには絶好の機会と考えており、現在、様々なアイデアを思考中である。

答弁 (町長)

支援には、一つのルールが必要と思うが、事業に応じ支援したい。

第一弾として、音楽の分野からはじめてみたいと考えており、棚倉町文化センター内にある倉美術館運営協会の共催をいただき、福島県地域づくり総合支援事業の活用について、五月に音楽祭の申請を行っている。



屋外拡声子局



鈴木 政夫 議員

問

放射能除染計画はどこまで進んでいるのか

答

除染実施計画が承認される予定

質問

(1)町は、放射能除染計画を立て、環境省から年度内には法定計画として認可される予定としていたが、どこまで進んでいるのか。

(2)行政区や団体による除染作業は、今後も継続するのか。五十万円の助成金は、まだ有効なのか。五十万円を使い切ったのは何団体あったのか。

(3)町の水道水の放射能測定は、東電への委託ではなく、町が独自に測定すべきではないか。

答弁(町長)

(1)町の放射能除染計画は、環境省担当部署との協議が終了し、環境省へ法定計画となる棚倉町除染実施計画を提出し、承認される予定である。(2)行政区や団体による除染作業は、今年度も継続し、初めて実施する団体は、昨年同様五十万円の補助となるが、昨年度実施した団体は二十五万円となる。

また、昨年度、除染活動を実施した団体は五十三団体であり、うち三十九団体が五十万円、十四団体が五十万円以下の補助額となっている。

(3)町水道水の検査については、県が主体となつて、県内市町村の検査を東京電力柏崎刈羽原子力発電所で検査を行い、生データが県原子力センターに送付される。

問

ルネサンス棚倉の経営改善は

答

徹底した経費削減に努めてきた

質問 ルネサンス棚倉の経営改善はどこまで進んでいるのか。営業時間が短縮されたままで、改善が進んでいるなどと言えないのではないのか。

改善点の基本は、町民が積極的に利用出来るような改善を図るべきではないか。

答弁(町長)

現在、ホテル営業は、二十四時間営業で、クア



ルネサンス棚倉のスイミングスクール

ハウスは、平日は午後三時から十時までで、徹底した経費の削減を行っている。



東電へ検査委託する町水道水

た後に、放射性物質検出の有無を判断し、県内の市町村に報告している。従って町は独自の検査は考えていない。

問

山岡小学校の指導力アップ研究授業の成果は

答

ユニット複式授業の評価を得ることが出来た

質問 山岡小学校で第一回町学力向上推進会議の「授業研究会」が開催されたが、この中で得られた成果はあったのか。

答弁(教育長)

山岡小学校では、小規模・複式における授業の工夫として、複式授業の弱点を解消するため、ユニット複式の効果、反復や継続の学習方法などについて、協議検討が行われ、評価を得ることができた。

【その他の質問】

問

町道に認定していない「みなし道路」は何路線あり、それらは町道に認定すべきでは

答

みなし路線は二百四十路線あり、条件を整えば町道に認定することが出来ると思う

問

東洋シャフトの進出はどうなっているのか。また、バイオマス関連企業の誘致に取り組む組んではどうか

答

東洋シャフトは年内に工事着工し来春操業予定。バイオマス企業は今後研究していく



近藤 悦男 議員

問

損壊した公共施設の復旧復興状況は

答

災害に強いまちづくりを着実に進めている

質問

(1) 震災復興に向けた取り組みは。

(2) 損壊した公共施設の復旧、復興状況は。

答弁 (町長)

(1) 復興に向けて、被災者生活再建の支援、原子力災害の克服、公共施設の早期復旧、再建など、災害に強いまちづくりに関する各種施策を、着実に進めているところである。

(2) 被災した主な公共施設は、棚倉幼稚園をはじめ、総合体育館、中央公民館などに甚大な被害を受けた。各小・中学校、幼稚園、町道、林道、農業用施設や農地、さらには消防施設、上水道施設、簡易水道施設、農業集落排水施設など、多岐にわたり多数の被災箇所があったが、平成二十三年度中に概ね復旧完了している。

棚倉幼稚園については、平成二十三年度に予算



復旧の完了した城跡堀の法面

化し、五月に臨時会で契約締結し、平成二十四年十二月完了を目指し、施工している。中央公民館については、社会教育複合施設として姿を変え、町民の方々の憩いの場所、親しめる施設となるように設計を委託し、九月には工事発注をする予定。

問

螢の里づくりで観光と教育の充実を図っては

答

観光につなげるには難しさがある

質問

(1) 螢で観光の充実を図ることができないか。

(2) 螢を活用し、安心安全な自然環境のPRをしてはどうか。

(3) 小・中学校と地域連携での教育プログラムができないか。

答弁 (町長)

(1) 通年で見られるものではなく、観光につなげるには難しさがある。

(2) 町では、ホームページなどを通じ、環境放射線量や農作物の放射線測定結果などを、随時公表し、螢に限らず、様々な活動を通じ、安心安全をPRしたい。

(3) 当町は自然豊かな地域にあるため、新たなビオトープを作るよりは、実際の自然環境を観察するのが良い。

※ビオトープ
野生生物が生息し、自



ゲンジ螢が飛ぶ近津川上流域

然の生態系が機能する空間

質問 螢の里づくりを、地域住民、民間、議員のメンバーで立ち上げたいが、行政が協力できないか。

答弁 (町長)

地域の団体あるいは、皆さん方で作られた団体で、螢の里づくりは非常にすばらしい。町でも、金銭的や物心両面にわたり、協力はできるのでは。

是非、実施していただきたい。

質問 観光の一環として、山本不動尊に行くバイパス沿いに、山本不動尊の写真入りの大きな看板を立て、また、螢ロードの案内板を大きく書いてアピールすれば、観光のために人が集まると思うが。

答弁 (商工農林課長)

十分な研究や検討をしたい。



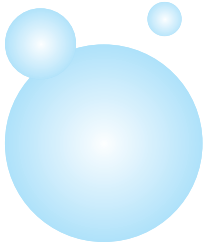
佐藤 喜一 議員

問

通学路の安全確保は

答

歩行帯などを設け安全確保を図る



質問 当町でも、通学路の安全点検が実施されたが、下町地区では、県立修明高校の通学路になっているので、次の点について問う。

(1) 町道下町中豊線の豊川橋の拡幅計画はあるのか。

(2) 交通対策の方法は何か考えているのか。

(3) 利用者が、増加している中豊駅周囲の整備計画はあるのか。

答弁 (町長)

(1) 橋の拡幅は、財政的に困難である。

(2) 昨年、道路反射鏡を設置したが、今後は歩行帯を設け、カラー舗装を実施し、安全確保を図る計画である。

(3) 町に要望が出されていないので、現時点では計画はない。



下町地区の豊川橋付近

問

流廃寺跡発掘の成果と今後の対応

答

文化庁と協議して、国指定の文化財を目標

質問 流廃寺跡発掘には、県指定重要文化財の発掘をはじめ、大きな成果が得られているが、今後の保存整備などを問う。

(1) 発掘の成果と今後の国指定を得る方策。

(2) 地区内に山林を所有している人員と指定後の対策。

(3) 出土された「金銀象嵌鉄剣」の保管状況と、地区内の管理計画は。

答弁 (教育長)

(1) 八年間の発掘の成果を基に、文化庁と協議して国指定を目標とする。

(2) 地区内には、二十四人の地権者がいるので、管理の同意をいただく。

(3) 現在、会津若松市にある福島県立博物館にて保存管理している。

答弁 (生涯学習課長)

地区内の管理については、保存会の方にも引き続きお世話になりたい。



流廃寺跡

問

棚倉町第六次振興計画の内容は

答

内容や方法について今後検討していく

質問 町では、平成二十五年に第六次振興計画策定に向けての、住民意向調査やワークショップなどが計画されているが、これらを含め、第六次振興計画について問う。

答弁 (町長)

町の将来像や十年間の町づくりに対する考えについて、町民の意識を把握し、計画へ反映させる事を目的に、実施していく計画である。

総務常任委員会

町総合計画と議会の かかわり

平成二十四年七月四日から六日までの三日間、総務・厚生文教・建設経済・広報編集の四常任委員会で、宮城県大和町、岩手県岩泉町、葛巻町、一戸町の四町の行政調査を行いました。

大和町 岩泉町 一戸町

◎町総合計画の策定

岩泉町は当町とほぼ同じ策定方法だったが、他二町は特筆すべき点があった。

それはともに「総合計画審議会」に審議員として議員が参画していることである。当町の場合、議会の中で審議できるということから、あえて審議会に議員を入れていない。

議員の声をさらに反映させるためにも参考にしたい。

さらに議員全員協議会で複数回の協議を行っていることも、町民の声を反映させるのには有意義であると考ええる。

大和町

◎模擬議会

町制施行五十五年、新議会場開設記念事業の一つとして、「中学生によ



みやぎの中核都市・大和町

る模擬議会」を開催した。将来のまちづくりと社会への参画意識を高めることなどを目的に行った。

学校教育の面では評価するが、議会としては必要性を感じないという意見が多かった。

葛巻町

◎ふるさとづくり 寄附条例

「寄附を通じた住民参加型の地方自治の実現」を目的に、「森林保全と資源循環、新エネルギー導入」という事業に限定した寄附金を募っている。

創設後六年間で総額約七百五十万円。そのうちの七十八％は町外者からの寄附という数字を見ると、当初の目的は達成できていると思われる。

当町においては、「ふるさと納税制度」を推進しているが、町民参画型の事業にはこういった寄附金を検討してみてもどうか。

エコエネルギーの 取り組み

葛巻町

◎第三セクターの状況

「エコワードくずまき

風力発電」は、現地視察はできず、説明のみの研修となった。四百キロワット三基の発電施設で、出資金一千万円のうち、二百五十万円を町が出資。売電単価が一キロワットあたり八円ということで、

採算を考えると楽な運営ではない。

しかし目的は環境問題への貢献。「エネルギー自給の町」というテーマには合致している。

当町では、現在推進している「太陽光発電」でのエネルギー施策を充実すべきと考える。

総務常任委員会
委員長 宮川 政夫



クリーンエネルギーの町葛巻町

厚生文教常任委員会

子供とお年寄りへの 手厚い施策

一戸町

○子育て支援策 ○第三セクターの状況

現町長の公約もあり、
手厚い子育て支援が行わ
れている。

子育て支援をする「町
づくり課」の創設。
雇用促進住宅を購入して
少ない事業費で立ち上げ、



子育て支援が充実した一戸町

町外から入居し子供が増
えるほど家賃が安くなる
子育て支援住宅「キッズ
あい」。保育所などの月
額保育料の上限を子ども
手当（児童手当）と同額
にすることで「保育料
の実質無料化」。
各課にまたがるものを一
冊にまとめた「子育て情
報ガイドブック」。

一レセプト五百円の負担
で行っている「医療費助
成の対象を高校生まで拡
充」。

これらは子供が多い世
帯ほど助かる施策ばかり
であり、子供と人口増を
考えるのであれば当町で
も以上のような施策は真
剣に考えるべきである。

こうした施策は、振興
計画の人口目標値設定と
も整合性が生じるものと
考える。

将来にわたり、一戸町
民の福祉を充実させるた
めには、地域福祉・在宅
福祉活動の充実がもつと
も重要な課題であるとし
その活動基盤の育成強化
を図ることが急務である
として、町と社会福祉協
議会が中心となり社会福
祉基金の造成に努め、そ
の果実である利息を財源
として活動資金の助成を
図り、町民福祉の増進に
寄与することを目的に
「財団法人一戸町社会福
祉基金」が設立された。
この基金に対し、関係諸
団体からは、基金の助成

を得ながら、安定した事
業展開ができることに對
し感謝されている。

また、第三セクターに
て「株式会社結愛サービ
ス公社」が設立されてい
る。事業としては県立病
院五階部分を全て借用し、
有料老人ホームの運営を
行うなど、介護事業を行
っており、介護保険対象

外の事業にも積極的
に取組んでいる。この会社
では、百八人が雇用され
ており、雇用の促進にも
つながっている。

当町においても、基金、
公社とも研究に値する施
策であると考えている。

厚生文教常任委員会
委員長 佐川 裕 一



一戸町での行政調査

建設経済常任委員会

雇用確保に欠かせない 第三セクター

岩泉町 葛巻町

◎第三セクターの 状況調査

岩泉町の第三セクターは、公益事業の(株)岩泉産業開発と農業支援事業の(株)岩泉農業振興公社で事業展開をしている。

龍泉洞の水を使って、多種の製品の製造販売と、特産牛の短角牛も、加工販売している。ただ、経営状況は厳しく感じた。

しかし、二百五十人の雇用は山間の町としては大きな魅力。「道の駅いわずみ」の隣には、すばらしいグラウンドなどもあり、観光、特産品を活かした町づくりをしていた。

一方の葛巻町は、人口七千三百人の山間の町で人口より牛の数が多いとされる酪農の町である。



宿泊した葛巻町のグリーンテージ



葛巻町役場

この町の第三セクターは三社とも経営状況が良く、当町でも参考になる点があると感じた。

平成二十年度決算では、一億前後の剰余金を出した(株)葛巻町畜産開発公社やワイン加工・販売の葛巻高原食品加工(株)、そして我々が宿泊した(株)グリーンテージぐすまき。オ

ーブン前にはルネサンス棚倉を視察に訪れ、参考にしたそうである。経営に対する関係職員の姿勢に、強さ、意気込みを感じ、それが黒字経営に結びついていると感じた。

山間地ならではの、酪農の六次産業化の確立と第三セクターにも多額の設立資金を投資せず、町にあった規模の設置が黒字経営、多くの安定した雇用につながっている。

町活性化に向けた 企業誘致

大和町

◎企業誘致優遇制度

みやぎの中核都市大和をテーマに掲げ現在の厳しい経済情勢、昨年の大震災にも負けず、前進を続ける大和町を調査した。

最初に感心したのは、宮城県を代表する水稲の町から、昭和四十七年の町基本計画策定に当たり「農工併進」の町づくりを目指し、企業誘致に取り組み、現在その目標がすばらしい形で達成されている点である。その実現に向けて企業誘致に対しての取り組みは大変参考になった。

企業誘致に優位な環境、制度などの活用は当然ながら、町長を先頭にトップセールスの展開と三人の職員により、

(1)長期的な雇用が図られる企業

- (2)競争力のある企業
- (3)技術指向型、研究開発型企業

これらの企業誘致を目標に、多岐に情報収集をしていた。県、県の東京事務所、帝国データバンク、商工リサーチなどの活用、県への職員派遣。その努力がトヨタ自動車東北を中心とし、各種の企業の立地に結びついたと思う。

当町は、高速道、新幹線へのアクセス面などの違いはあるが、大事なことは企業誘致に取り組む姿勢と思う。停滞感の声がある当町の企業誘致。「雇用の確保」「税収の増加」「地域経済の活性化」そして、町人口増加のためにも、企業誘致は不可欠である。

建設経済常任委員会
委員長 須藤 俊一

広報編集常任委員会

多くの町民が読みたく
なる紙面の工夫

大和町
岩泉町

◎早期発行をめざして

まず、議会だよりの発行日が、定例議会の翌々月の一日に発行されており、当町より十五日間早く発行されていた。その

要因として、一般質問の時に、最初の答弁書が質問者に配られていた。これは両町とも共通しており、町民に一日でも早く議会だよりを届けるため、当町でもこの方式を適用することが共通の認識となった。

また、読みやすい紙面



大和町での行政調査

へ工夫として、見出し、写真、レイアウトなどの工夫が必要であることも感じた。

特に傍聴者の声や写真などを掲載し、議会だよりが身近なものとして感じられる工夫がなされていた。

さらに、町の新事業や重要政策などの特集記事を組んで、読みやすさの努力をしていた。

当町でも議会だよりに取り組んできた「あの質問、どうなった」の追跡記事をもっと活用することが、紙面をさらに充実させることに繋がることを実感してきた。

両町とも、議会だよりに全国コンクールで入賞を果たしている先進的な議会だよりのあった。全国コンクールに上位入賞することは、町民にとって読みやすい内容に編集されていることの証拠であり、見習うべき事であると感じた。

今後は、棚倉町議会だよよりも、全国コンクール

へ挑戦し、上位入賞を果たせるような、議会だよりを作れることを委員全員で確認した。

これは、町民の皆さんに喜んで読んでいただくことの出来る議会だよりに作ることに、必ず、実現させたいと考えている。

そのためには、毎年開催されている全国議会だよ研修会にも積極的に

参加し、見聞を開いていきたいと思う。

また、編集の面では、編集常任委員会に一任していただき、統一されたきれいな紙面づくりのため、今回の研修で得たものを活かしながら、頑張っていくことが必要である。

広報編集常任委員会
委員長 鈴木 政夫



全国町村議会広報コンクールで入賞

議会傍聴で感じたこと

六月二十四日に行われた一般質問には、山岡、高野地区のふれあい学級の皆さんのほか、たくさんの方々も傍聴されましたので、感想の一部を紹介します。

傍聴の目的は

- ・生涯学習課主催のふれあい学級で参加した。
- ・教育行政について興味があるため。
- ・町の現状を知るため。

傍聴されての感想は

- ・傍聴する機会がなかったので、ふれあい学級で参加することができてよかった。
- ・同じ質問が多すぎる。
- ・議員各位が、真剣に取り組んでいる姿に感動した。

議会活動・議員に期待することは

- ・町のために一生懸命がんばってください。
- ・現状認識力が非常に低いと思えますので、地域や現場をたくさん歩いて、実情を知りレベルアップを望みます。
- ・原発事故による風評被害払拭実現に向け努力してもらいたい。

議会に取り組んでもらいたいことは

- ・サンデー議会の傍聴者の人数をもっと増やす検討が必要ではないか。
- ・一層の活性化に努力してほしい。

議会を傍聴してみませんか

議会傍聴は、町政を知るよい機会です。
町の施策や議会の活動について、あなたの目や耳で確かめ、町政に参加しませんか。
傍聴の手続きは、役場庁舎三階の傍聴席入口で住所と名前を書いただけで、どなたでも傍聴できます。

9月定例議会日程のお知らせ（予定）

9月25日(火)	定例会開会・本会議
9月26日(水)	一般質問
9月27日(木)	休会
9月28日(金)	本会議・閉会

※正式日程は、9月18日開催予定の議会運営委員会で協議されます。

編集後記

復興元年、「試練の年」から「日本の棚倉再生」に向け、今、町民の皆さまと除染をはじめ、何をすべきかを考えるべきです。

今回の災害を教訓とし、危機管理を十分なものにして「安全、安心、元気」な町づくりをして、活力ある町、明るい町を目指して進みたいと思います。

広報編集常任委員会
委員 近藤 悦男

広報編集

常任委員会

委員長 鈴木 政夫
副委員長 角田 悦男
委員 佐藤 喜一
委員 大相 守
委員 近藤 悦男